



12月



修学旅行が終わると・・・いよいよ

例年、2年生の修学旅行が終わると、いよいよセンター試験が間近に迫ってきたと感じます。3年生もより身が引き締まり、記述問題中心に取り組んでいた生徒もマーク式の問題を解き始め、2年生もセンター試験まであと1年となり本格的な受験生となる時期だと思えます。

3年生は、これからの時期で一番大事なのは、メンタルと体調の管理です。センターまで残り30日を切ると焦りがちですが、まだまだできることは多いです。勝負は本当に最後までわかりません。焦らず落ち着いて日々を過ごしてほしいと思います。また、弱気になるとうまいいいことはありません。ここまで来たら志望校は絶対に変えないという意気込みでセンター試験に臨んで下さい。

2年生は1月の大学入試センター試験翌日に、3年生が受験したセンター試験と全く同じ問題を受験します。英数国の3教科だけですが、その成績を見ると、実は2年生と3年生の差は平均すると(数学②を除くと)1~2割程度で、科目によっては差が1割に満たないものもあります。もちろん生徒によっては得点が倍くらいに伸びる生徒もいますが、多くの生徒は1年間で伸びても1~2割とも言えます。しかし、本当は1年間あればかなりのことができるはずですが、まだまだ先だと思ってしまうと、時間だけがズルズル過ぎていってしまいます。また、理科社会などはセンター直前の1ヶ月で平均で1割くらいは伸びます。短期間でもやる気によってはグッと伸びる教科もあります。英数国は2年まで、3年は理社を中心にバランスよくといわれるのはこういった理由です。2年生はここから本気の取り組みが必要だと思えます。1年間本気でやれば何とかなるものです。

1年生は、今年は高校に入学したばかりで、受験なんてまだ先かもしれません。この冬休みはのんびりするのでもいいかもしれません。しかし、あと1年後には今の2年生と同じ立場になります。センター1年前までが勝負といえる教科もあると考えておいた方がいいと思えます。

今後の主な予定

12月

- 22日(木) 終業式
- 23日(金) 学研模試①②
センタープレ演習③
- 24日(土) 学研模試②
センタープレ演習③
- 29日(木)~1月3日(火)
学校完全閉鎖

1月

- 5日(木) センタープレ演習③
- 6日(金) 始業式
センタープレ演習③
- 9日(月) 成人の日
- 13日(金) センター激励会③
進路講演会②
- 14日(土) センター試験③
進研模試①②
- 15日(日) センター試験③進研模試②
- 16日(月) センター自己採点③
センター本番演習②
三者懇談期間(~20日)
- 21日(土) 土曜課外①②土曜講座①
登校学習会②
- 26日(木) 金の授業
課題研究 SS IⅡ発表会
- 27日(金) スキー教室①木の授業
- 31日(火) 3年授業最終日

進路行事より

先週の15日(木)に外務省の「高校講座」が本校の1年生を対象に行われました。山梨県出身の外交官矢端佳代子氏に来て頂き講演を聞きました。非常に気さくに外務省や外交官の仕事、語学や海外の話、またサミットやAPEC等の外務省でなければわからない話等楽しくわかりやすく話して頂きました。終了後の質問にも丁寧に的確に答えて頂き生徒から質問が1時間近く続きました。さらに、終了後は座談会を行い1年生12名が参加し外交の話や留学の話等さらに深まった話を聞くことができました。世界に肌で触れ、国益というものを真剣に考えている方の話が聞ける貴重な機会であったと思えます。また、12月2日(金)には同じく1学年対象で

大学出前授業が行われ、8分野の大学の先生に来て頂き、それぞれの講義を聞くことができました。自分の進みたい分野について専門的な講義を受け、興味関心が高まったようでした。



高大接続改革について

1. 高大接続改革とは

高大接続改革という言葉は初めて聞く人もいらっしゃるかもしれませんが、早い話が大学入試を改革しようということです。日本の教育はゆとり教育や生きる力など様々な改革を経てきておりますが、その根本的なことはなかなか変わらずにきていることも事実だと思います。それは改革と叫んでも、やはり誰もが大学に入学したいと思い、高校もそれにできるだけこたえようと考えているからで、結局のところ大学入試が変わらなければ何も変わらないということです。入試改革に手を付けるということから、今回の改革は文部科学省としても本格的に教育改革(入試改革)を行おうと考えているようです。

2. 何を目標して行うのか

そこで目指すのは、今の世を生きていくのに求められる力の育成です。我々の生きている時代というのは、本当に目まぐるしく刻々と変わって来ています。ほんの20年ほど前には、高校生が携帯電話をもって世界中の情報をその端末で得られるなんて考えてもみもしませんでした。ましてやそんな産業が世界を牽引していくとは想像もつかなかったと思います。ですから、これから20年後の世界で今と同じような産業が世界を牽引しているかということ、それはどうなるかわかりません。また、この20年で中国などの国が大きく力を伸ばしたり、グローバル社会・格差社会などと言われるようになってきていますが、それもこの先はどうなるかわかりません。しかし、いつの世もその時代に適した人間の力が発揮されてきていることは確かなことであると思います。これからの時代に適した力は、どんな力かなんて断言できませんが、いつの世でも自分で考え、自分で生きていく力であると思います。これからの時代を担っていくためには、自分で考え、人と協働し、社会を上げていく力が、より一人一人に求められていくように思えます。ただ決められたことを同じように繰り返すことを求める時代は終わり、機械や人工知能にとってかわられるのではないのでしょうか。教育界もそれに対応することが求められています。もうかなり以前から文部科学省などは、このことを提言していたのですが、なかなか浸透していなかったとも言えます。しかし、大学入試をそういう形態に変えることができれば、おそらく多くの高校や生徒がそれに対応し、変わっていくのではないかと考えます。

3. センター試験が変わる?

その第1歩が、2020年(平成32年)の大学入学希望者学力評価テスト、いわゆるセンター試験に変わる新テストと呼ばれるものであります。今の中学2年生が大学受験の年からスタートする予定で、今までのセンター試験の形態から記述式を取り入れた、思考力や表現力を試す試験内容になっていきます。しかし、なかなか採点の問題等で進んでいない面もあり、まだ不確定要素も多く残されています。現段階では国語で80字程度の記述問題を出題するとの報告は出ております。そして、やはりこれからの時代、英語はツールとして使えることが当たり前のように求められてくると考えられ、今までの英語のリスニングだけでなくいわゆる四技能(読む・書く・聞く・話す)の試験を導入しようとしています。これについては案はいくつか出されているのですが、まだ詳細を決定するまでには至っていません。

4. 今後の入試と、本校や他校での取り組み

現時点でも、大学側はかなり改革を求められているようで、アクティブラーニングや反転授業など授業形態の改善がかなり進んでいます。それが入試へと向いており、当然こういった流れができてくると、2020年以前の大学入試も影響はあると考えるべきでしょう。東京大学などは以前から、学生に思考力を求める良問が作成されており、知識だけで対応するのではなく、基本的な考えを自分で活用することを求めています。さらにそれを記述し表現するような問題になっています。また、慶應義塾大学の文系では国語ではなく小論文を入試に課しており、理解と表現の能力を総合的に問うております。これからはこのような考える力や表現力を求める大学が増えていくことが予想されます。かといって基本的な知識がないと対応できない点は従来と同じであると言えます。

本校でもこういった改革の流れを意識し、県内外の研修や説明会にも参加しています。今最も変わってきているのは、中学2年生がすでに入学している首都圏の私立中高一貫校です。こういった流れを学校教育の中で取り入れ、いわゆるアクティブラーニングや英語四技能・海外研修などを積極的に展開し入学希望者を大幅に増やして、注目されています。そういった流れを敏感に感じて世の中は動き始めているようです。みなさんもそういった変革を意識しておくことが必要であると思います。

「進路だより」をはじめ、学校から発行された各通信は本校ホームページに掲載されています。



山梨県立甲府南高等学校
進路指導部

URL <http://www.kofuminami-h.ed.jp>
E-mail shinro@kofuminami-h.ed.jp